

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4360290003
法人名	有限会社 あい
事業所名	グループホーム あい
訪問調査日	平成 21 年 4 月 22 日
評価確定日	平成 21 年 5 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4360290003
法人名	有限会社 あい
事業所名	グループホーム あい
所在地 (電話番号)	〒866-0827 熊本県八代市島田町863-3 (電話) 0965-30-8952

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成21年4月22日

【情報提供票より】(平成21年 4月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 6人, 非常勤 7人, 常勤換算	8.0人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り	
	2階建ての	1階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	262 円	昼食	420 円
	夕食	420 円	おやつ	105 円
	または1日当たり 1,207円			

(4) 利用者の概要(4月 22日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.8歳	最低	76歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中泌尿器科外科医院、浜田呼吸器科内科クリニック、 中川外科医院、林整形外科医院、八代病院、鏡歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新幹線新八代駅のすぐ近く、昔ながらの家並みと新興の住宅地、田園地帯の混在する静かな集落の中で、家庭的な生活が営まれている。「これまでに知らなかった者同士が、一つ屋根の下で出会い、お互いにふれあい・支えあい・慈しみあいながら生活していくことを願い、家庭的な雰囲気の中で入居者一人ひとりの方が持てる力を出し合い喜びを実感しながら過ごせるように…」との経営理念を実践し、楽しくのんびりとした生活が展開されている。週1回の歯科衛生士の訪問により口腔ケアに配慮し、食べる楽しみを大切に。「らっきょうはミキサーでどうかな? 福神漬は?」など職員も入居者も生活に楽しみを見だしており、「私のままに過ごせる」ことを大切に毎日のケアが行われ、言葉は方言混じりの多少つけんどんでも、職員と入居者の間には愛情が感じられ、親と子・孫、本当の家族のような微笑ましい光景となっている。育児休業を安心して取れるサポート体制、充実した看護スタッフとの連携など、入居者・家族の安心に繋がると共に職員にも優しく安心して働ける職場であることが伺える。ホームの前向きな向上心がケアに反映されて、安心・安全の生活が提供されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価結果はミーティングで報告し、真摯に受け止め改善に取り組むことで、職員のやる気と家族の理解や信頼を得ている。職員の退職や育児休業で常勤職員が少ない中で、具体的な改善には至らなかった項目もあるが、常に意識を持ち、ミーティング等で共有する等、誠実な対応が伺える。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者と主任代行とが話し合い記入している。次回は職員全員で取り組む予定である。毎年受けているため、職員は外部評価の意義を理解しており、課題を具体化することでモチベーションを上げ、サービス向上に繋がると思われる。負担が少ない項目毎に分担する等工夫をし、職員全員で取り組むことで、意識や意欲、また上司や同僚への理解も深まることが考えられる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回、町内会長・副会長、老人会長、児童民生委員、婦人会副会長、行政、入居者、家族代表等が参加し、2ヶ月に1度開催している。ホーム2階の会議室で開催されているため、生活の様子を見ていただく機会ともなり、意見交換・連携・協力依頼を行うなど有効に機能している。地域、婦人会や老人会との信頼関係も構築できており、今後、運営推進会議が認知症サポーター養成等の認知症への理解や、地域との新たな交流のための情報発信源となる有意義な活用が期待できる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の心のケアも視野に入れた支援の成果で、家族との信頼関係が築かれており、家族の訪問は頻回で家族会の活動も活発である。家族の協力体制も心強い。家族にもカンファレンスに同席してもらい、意見や要望を汲み取り、サービスに反映する努力が行われている。家族アンケートには安心と感謝の言葉が多数見られ、満足度が高いことが伺えた。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会行事や敬老会には積極的に参加し、法人主催の夏祭りには、近隣住民の多数な参加がある。町内会から大掃除の手伝いの申し出もあり、地域に馴染んだ存在となっている。既に関係の構築が行われている老人会や婦人会など地域の方と共に、ひとり暮らしの方や見守りの必要な方、キーパーソン・お世話が届く方などを記した独自の「町内マップ」作成の計画がある。地域の「認知症講座」を企画し担当するなど、地域の認知症サポートの拠点となることが期待される。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には、“であい・ふれあい・支えあい・慈しみあい”と地域との関わりを持ち、その人らしく“我のままに暮らせる”ことが謳われている。一つ屋根の下で、家庭的な雰囲気の中1人ひとりの持てる力を出し合い、喜びを実感しながら過ごすことを明文化し、地域に根ざし、地域密着型サービスとしての役割を踏まえた内容となっている。	○	その人らしく“我のままに暮らせる”という理念は既にも実践されているが、家族や地域に理解しやすいよう、具体的な文章化を望みます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	わがままに生きるすばらしさ、わがまま・ありのままを受け入れる難しさを、日々職員間で確認し、意識の統一を心がけている。“我のままに暮らす”理念を実践するため、カンファレンスに家族の参加を呼びかけ、ホーム全体の理念の共有が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りなどの行事の際は近所にポスティングし、町内会行事や敬老会にも積極的に参加している。町内会から大掃除の手伝いの申し出があるなど、交流は盛んである。散歩時は「あいさんげ」の人でしょう！？と声をかけられる場面もあり、地域に馴染んだ存在となっている。	○	重度化に伴い、行事への参加が難しくなっていくなか、社会福祉協議会との連携や、PTA、小学校の体験学習受け入れなどを検討することで、より一層地域との繋がりが構築されると思われる。また、老人会や婦人会、民政委員会の年間計画に「認知症講座」を組入れてもらうよう働きかけ、地域の認知症サポートの拠点となることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者と主任代行とが話し合い記入している。毎年受けているため、職員は外部評価の意義を理解しており、意識の高さが伺える。外部評価結果はミーティングで報告し、真摯に受け止め改善に取り組むことで、職員のやる気と家族の理解や信頼を得ている。	○	負担が少ないよう項目事に分担する等工夫をし、職員全員で取り組むことで、意識や意欲、また上司や同僚への理解も深まることが考えられる。改善点についても全員で検討することで、より一層家族の理解や信頼に繋がると思われる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、町内会長・副会長、老人会長、児童民生委員、婦人会副会長、行政、入居者、家族代表等の参加を得て、ホーム2階の会議室で開催されている。ホームからの報告の他、近隣の独居の方の情報や町内会行事の情報交換等、地域との連携が密となり理解を深める機会となっている。次回から地域包括支援センターの参加が決まっており、意欲が感じられた。	○	消防署、警察、学校(PTA)、郵便局、社協職員などテーマごとに多彩な参加を得ることで、多くの意見・情報交換を広めることも可能と考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者は、グループホーム・宅老所八代連絡会の勉強会の講師紹介や情報交換等協力的であり、質問等を気軽に応える関係が構築されている。また、福祉や介護保険関連の課以外の部署と情報交換や連携を働きかけることで、より一層の情報の提供に繋がると思われる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問は頻回であり、訪問時に生活の様子や健康状態などを担当職員が報告している。健康状態の変化など緊急を要する場合は、電話連絡を行い、家族の理解と協力を得ている。遠方の家族へは写真を同封すると、より一層、家族の安心と信頼に繋がると思われる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からボランティアや「出来ることは何でもします」と申し出があるなど、良好な関係性が構築されている。家族会において認知症や心のケアの勉強会を行い、家族にもカンファレンスに出席してもらうなど、積極的にコミュニケーションを図り、家族の意見や要望をくみ取る努力が行われている。	○	家族会のプログラムの中で、家族のみでの懇談の時間を設け、そこで出た意見や提案は「家族会の意見」として報告してもらい、家族の不安や悩みの共有で忌憚のない意見の表出が期待できると思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2名の退職者と育児休業者があつたが、馴染みの関係の重要性を認識し、常勤職員の応募が少なく、又認知症介護に適した人材が少ないため、休業者復帰までパート職員や役員の応援で対応している。職員の不安感に十分な配慮を行うことで、入居者の不安や混乱を回避する心がけが見られた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回のホーム内の勉強会と2ヶ月に1回の法人合同勉強会を実施し、月に1度のGH連絡会の勉強会に職員が参加している。実践者研修や実践リーダー研修など施設外の研修にも極力参加出来るよう配慮があり、意欲の向上と前向きなケアへの取り組みが支援されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回グループホーム八代連絡会が行われており、情報交換と学びの機会となっている。職員間のネットワークも築かれつつあり、職員の他施設訪問までには至っていないが、研修の受け入れ等を行っており、質の向上への意欲が見られる。	○	グループホーム連絡において、テーマを決め、事例を検討しアドバイスをし合ったり、悩みの共有をすることで、ネットワークが有効活用される勉強会となることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況に応じ入居までの1週間程度自宅から通い、馴染んでもらうと共に、家族の理解や安心にまで配慮した工夫が見られた。入居に際しては、生活歴やライフスタイルについて聴き取り、これまでの生活や環境を継続できるよう配慮している。また、入居直後は勤務人数を増やして常に見守り、気持ちに添ったケアを行い、職員との信頼関係作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干しの漬け方や高菜漬けのもみ方、羊羹の作り方、洗濯物の干し方の工夫など、入居者から教わりながら共に実践している。日常のちょっとしたことを話題に冗談を交わし笑い合う光景が見られた。職員は、入居者の笑顔や「ありがとう」などの声掛けが、癒しとやる気に繋がっているとの認識を持ち、共に楽しみ支え合う関係が築かれている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寄り添い、話しをしながら、食事を共にし、本人の声を聴き、表情や態度から思いを推察している。ストレートには表現できない隠された気持ちを汲み取る細やかな配慮が行われている。また、生活歴や家族の話等から思いを推察し、気付きを記録に残し、共有する努力がみられた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりに担当職員が決められ、担当職員が中心となり評価をし、他の職員、家族・本人、医師等の情報を収集し、必要に応じて家族の参加を得、カンファレンスを実施している。介護と看護の多様な角度から見た意見を取り入れ、介護計画作成に取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の状態に変化が見られた場合には、随時見直しが行われている。見直しの際に問題点が見えるよう、ケース記録に発言や表情などが細やかに記入されていた。プランを日常ケアで具体化できるよう個別に「日課計画表」を作成しており、有効な活用は試行錯誤中とのことだったが、統一したケアのために日課計画表の有効な活用が望まれる。	○	家族の理解と安心のためにも、状態安定時においても定期的なプランの見直しが必要と考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や早期退院、終末期の看取りなど、同法人の訪問看護ステーションを活用することで、多様な支援が可能となり、家族の安心に繋がっている。隣接のデイサービスと合同で「デイ喫茶」を開催したり、音楽療法・回想法を取り入れた「元気クラブ」を月に1回実施するなど、社会資源としても機能し、事業所の多機能性十分に活かしたものになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の希望に添って対応。協力医療機関をかかりつけ医にしている4名は、往診その他の通院は原則として家族が付き添うが、受診後は家族との情報交換を密に行い、かかりつけ医との関係を築いている。歯科・皮膚科などの受診も、定期的かつ柔軟に連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	同ホームでの看取り経験を基に、入居の際説明を実施。全家族に同意書を得ている。経験に裏付けされた職員の意識は高く、かかりつけ医の指示と看護師のサポートによる安心の体制が整えられている。家族の理解や、職員の精神的負担も大きいと、ストレス軽減の取り組みや、看護と介護の職員の関わり方など、問題意識を持って取り組む姿勢が伺えた。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に本人や家族の立場に立って適切な呼びかけ・対応をするよう、職員の意識づけが図られている。家族としてのおおらかさとプライバシーの境界は難しいところだが、プライバシー保持や個人情報保護に関しての研修を通し、意識の向上と周知徹底を計画しており、一層の細やかな配慮が期待される。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活リズムを尊重し、起床や就寝、食事時間等臨機応変な支援が行われている。縁側のソファや居間の椅子など、個々の好みの居場所で思い思いに1日を過ごされている。外出や外食の希望にも柔軟に対応し、引きこもりがちな入居者は、天候や表情を見てその日の気分を確認し、散歩に誘うなど、気配りのある支援がみられた。	○	重度化や介助が必要な入所者の日々のその人らしい生活を支援するために、婦人会や老人会、家族にボランティアを呼びかけ、有効活用の検討を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好物の情報を常に集め、誕生日は好きな物でメニューを揃えている。また、筍や落など季節のものを多く取り入れたり、ベランダで食事をするなど、介護度が進む中で、食事が楽しみになるよう細やかな工夫が行われている。入居者と職員が同じものと同じテーブルで食べ、刻みが必要か、ミキサー食に向く食材かなど、常に入居者に向き合ったケアが心がけられていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は午後からとしているが、入居者の状況を見ながら柔軟な対応が行われている。入浴拒否の人には、気分を見ながら声かけのタイミングを計ったり、様々な工夫を行うとともに、清潔保持の観点から少々強引に入浴を誘導する場合もあるが、職員は常に意見を交換して試行錯誤しながら、気持ちのよい入浴支援に思案を重ねていることが伺われた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえや食器洗い、洗濯物干し・取り込み・たたみ、買い物、掃除など、入居者のできる力を活かす場面が用意されている。職員はなるべく手を出さず、機能を発揮する場面を多く作ることを配慮している。「お茶は飲んだね?」「拭いとくけんよかよ」など、自分の役割を見出し、いきいきと活動できるような支援がなされていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の重度化に伴い、外出の希望も少なくなったが、状態であるが、天候や入居者の状態等を見て、お花見や外出、外での食事など外出の機会を提供している。自宅の仏壇にお参りに行ったり、自宅の近くへドライブに出かけるなど多様な支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は全ての窓や出入り口を施錠せず、職員は常に所在確認を行うことで、危険を回避している。無断で出かける入居者に対しては、後方からの見守り付き添いを行い状況を見ながら声をかけ一緒に散歩した後ホームに帰っている。場合によっては早めの施錠をし、安全確保に努めている。敷地内に同法人の宅老所とデイサービスがあり、近隣住民との協力連携もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を得て、夜間想定避難誘導訓練を実施。近隣の協力が不可欠ということを実感し、近隣に向けた非常ベルの設置と地域の協力を得た訓練の実現を検討中である。また、防災が最も重要との認識の基、ガスの元栓確認を徹底している。	○	地域の住民や消防団員への認知症理解の研修働きかけ等、連携を深め、合同避難訓練が実施されることを期待する。また、火災のみでなく、風水害・地震時の避難訓練、緊急連絡のシミュレーション等も実施されると良いと思われる。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の合同勉強会で栄養士の指導・チェックを受け、意識を持ってメニューを作成し、徹底したチェックを行っている。食事摂取量を記録し、水分は摂取量と尿量でチェックし、声掛けや補充を図っている。ホームに入居したことで心身共に健康になり、体重の増加が見られる入居者もあり、甘いおやつの際はお茶、甘く無いおやつの際はコーヒーにするなど、糖分摂取についても配慮しつつ健康管理が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下・縁側に置いてあるソファや椅子が、各々のくつろぎの場となっている。特に日当たりのよいベランダと縁側は景色を楽しみながらゆっくりと過ごす居場所となっており、取り入れた洗濯物をおしゃべりしながらたたんだり、穏やかな生活感のある空間になっている。畳み敷きの談話室は、リビングから段差無く続いており、家族と過ごしたり、お昼寝の場所となっている。換気と風による体感温度に配慮し、廊下に続くドアは閉めるように意識づけられていた。老猫と共に我が家のように生活が営まれており、居心地の良い共用空間づくりが整えられていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で新聞を読んだりテレビを見たりして過ごす人、日中はほとんど縁側で過ごす人など様々だが、机やテレビ、ベットや布団敷き、カーペット、タンス、ソファなど、家具・調度品を自宅から持ち込み、個々の好みや生活スタイルに合わせた部屋作りとなっている。家族と一緒に写真や、手紙などが飾られた部屋も見受けられた。入居者の症状によつての制限もあるとは思われるが、家族の写真や職員が撮影した写真をコメントと共に飾るなど、本人・家族と協力した温かみを感じられる工夫もよいと思われる。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あい
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県八代市863-3
記入者名 (管理者)	永田 いつ子
記入日	平成 21年 4月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	”出会い・ふれあい・支えあい・慈しみあい”という理念の基その人がその人らしく暮して行けるように”我のまま暮らす”をホームの理念としているが、具体的に明文化していない。	○	”我のままに暮らす”こととはどういうことなのかを、職員と話しあい作り上げていく予定にしていたが、そこまでにはいたっていない。今年中には作りたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	その時々職員に対し、伝えている。 ”我のままに暮らす”ためにはどのような関わりを行っていくかを一人の方への関わり方を通してカンファレンスをしながら、意識の統一を図るようにしている。	○	意識の持ち方が、職員一人一人に違いがあるため、意識の統一が出来るようにカンファレンスに家族の参加を呼び掛けていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居相談時・入居時理念が出来た経緯を説明している。また、毎年、運営推進会議第一回目において理念について説明を行っている。 見学者に対しては理念についての説明は行っている。	○	地域(町内)活動の参加時等においてホームの理念についての説明の機会がもらえるように働きかけていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所の方や、町内の方と日常的な挨拶や立ち寄ってもらえるような声かけは、行っているが、新家屋が道路より奥に入ったため、道路に近い当社のデイサービスには、寄ってもらえているが、ホームまでにはなかなか来てもらえないのが実状である。	○	運営推進会議の委員の方からボランティアの声が上がっていることから行事等の手伝いの声かけを行いたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、町内会で行われる行事や校区での敬老会や公民館祭りなどに積極的に参加している。が入居者の方の重度化に伴い参加できる人が限られてきている。	○	重度のひとつにおいても、散歩などで地域とのつながりを保てるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	当ホームに出来ることがあれば、という声かけと、はしているがそれ以上の積極的な取り組みは行っていない。	○	今年度は老人会長さんに協力をしてもらい、町内のマップづくりに取り組みたいと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年度自己評価については、主任代行と行った。毎年受けていることで特に詳しい説明は行っていない。外部評価の結果はミーティング等で報告し改善に向けての努力はしている。	○	21年度は職員全体で行えるようにしたい。また、自己評価・外部評価に対する意識付けが出来るようにしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームからの報告だけではなく、委員の方からの意見・評価・質問などいただいている。又いただいた意見はミーティング等で職員で共有し改善点はすぐ取り入れている。自己評価・外部評価については、結果を報告しているが、なかなか意見をいただくまでにはなっていない。	○	ホームに対する評価や、意見はいただけるようになってきたので、今年度は入居者の方と一緒に食事会を設けるなど、実際の現場を見ていただき意見がもらえるようにしたいと考えている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム・宅老所八代連絡会の勉強会の講師紹介など、ケアの質向上に向けた取り組みに対し協力してもらっている。また、質問に対しても丁寧な回答をもらっている。	○	グループホームに対する期待や望むものを聴いたり、また、ホーム側からの要望など、理解してもらえるように、行政の担当者の方へ意見を出していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今年度は2名の職員しかこの項目に関する外部研修に出る機会がなかった。	○	ホームの勉強会において次年度の計画に入っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は2名の職員しかこの項目に関する外部研修に出る機会がなかった。職員のストレスが最小に止められるように注意を払っている。	○	ホームの勉強会において次年度の計画に入っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当ホームのケアの考えや、看取りに対する考え方について契約時に丁寧に説明を行い家族に同意を得ている。また、疑問点についてや意見など言いやすい雰囲気を作るように努力をしている。	○ 年度の替わり目に家族から意見を聞き必要時説明を行っていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見等を聞くことはなかなか難しい現状であるが、会話の中での、希望などをプランに反映させ実行できるようにしている。	○ 日常のなかから利用者の不満・苦情となることを気づくことが出来るような感性を磨いていきたい。面会時等家族の方が気づかれたことを聞き取れるようにする。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時担当職員により状況の説明を行っている。健康状態など変化が見られたときには管理者・看護師・介護主任よりTELなどで報告を密に行っている。金銭管理に対しても面会時出納簿を確認してもらいサインを頂いている。面会の少ない家族に対する報告は変化のみの報告となっている。職員の退職等の報告は運営推進会議で報告を行い、出席されていない家族に対しては議事録に残しわたしている。	○ 面会が少ない家族に対し、担当者が手紙を書くように計画をしているが充分といえる回数ではない。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・家族会で意見等がないかを尋ねるようにしている、また言いやすい雰囲気作りに努力している。意見・苦情・不満が聞かれたときにはよりよいケアとなるよう解決に向けての準備は整っている。	○ 家族からの意見が聞かれたときは、家族に参加してもらいカンファレンスを行い、ケアに対する職員間の意識統一を図るようにしていきたいと計画している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との日頃からの関係作りに努力している。意見や要望・提案など言いやすい関係になっていると思うが言いにくい部分に関しては介護主任が聞き役となり報告を受け、できるだけ改善が出来るように努力している。	○ 今後も、意見や提案が言いやすい雰囲気作りに努めていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	新規入居の時は昼夜とも人員配置を厚くしている。利用者の状況に合わせた勤務体制になっている、また職員の協力も大きい。管理者が看護師でもあり、利用者の状況・職員の状況に応じ24時間いつでも駆けつけられるようにしている。また必要に応じホーム内での待機も行っている。	○ 家族の方が安心出来るように、管理者と職員との信頼関係の構築を続けていく。(管理者と職員が利用者の視点で同じ方向性を持って行く為に)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度、2名の常勤職員の退職者があり、また、介護主任の育児休暇という状況であり、常勤職員の応募もないが、パート職員や役員(看護師)の応援体制で利用者へのケアへの影響が無いように十分配慮している。	○ 今後、離職希望者が増えるとも考えられるため、職員と十分な話し合いを持ち利用者への影響が少ない方法を考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2回／月施設内での勉強会を実施、また1回／月GH連絡会の勉強会に参加している。施設外研修にも出来るだけ全職員が参加できるようにと計画している。県で行われている実践者研修・実践リーダー研修も受けている。	○ 今年2人の介護福祉士合格！ 今年、GH勉強会においては認知症介護についての力を入れていきたいと計画している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH八代連絡会での勉強会等を通しネットワークは少しずつ出来ている。当ホームへの研修受け入れ等は行っているが、当職員が他施設訪問には至っていない。	○ GH八代連絡会を通し職員間のネットワークが出来る様な働きかけを行っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者が運営者であり、常に現場にいる事から職員の表情などから気づくことができ、いち早くに話が出来る状態にある。夜間など職員が不安と思う時には状況を見ながら管理者がホームにおいて待機をしたり、24時間連絡が受けられるようにし、職員のストレスを最小限にするように非常に気を遣っている。	○ ホーム外での発散の機会をなかなか作れていないので、業務外での交流の機会を増やしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の良い点を認め言葉にして本人へ伝えている。職員がケアに対し提案をした時には提案内容が利用者にとって適切なものかを提案者としっかり話し合い実行に移している。こういうことから職員本人が向上心を持ちもっと学びたいとの申し出があっている。個人面接を行い各職員の意識の向上に努めている。	○ 今後も職員の良い点を認め伝えていく。本人力が最大限引き出せるよう一緒に考え行動に移せるようにする。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が困っていること、求めていることについては、相談の時点でじっくり聴くようにしている。本人への面会を行い思いを感じ取れる努力をしている。	○ 本人からの困りごとを聞くことはなかなか難しいことが多いことから、家族からの話しの中から、本人にとっての困り事を受け取るアセスメントの能力を身につける。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の困っていること・求めていることについては、相談の時からじっくり聴くようにし、受けとめるようにしている。ホームとして出来ることについても開始前に話し合っている。家族の思いを受け止めるため一回限りではなく複数回の時間をとっている。	○ 時間はかなり取って聴いているが、家族の満足のいくものになっているかの聞き取りはしていない。このことについて今後家族の意見を聞く機会を作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族か「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームで受け入れが出来ない時でも、真剣に相談に乗り、その中で必要と思えるサービスや他の施設提案をしている。 繰り返しの来訪や現状についての相談を受けたりする事もある。	○	相談だけでも応じることで、少しでも相談者の気持ちの負担が軽減するのではないかと考えているので、今後も真剣に相談に乗っていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人がホームに馴染むためと、家族が入居を受け入れるための方法として、1週間ほど家からの通いを行った後入居となった事例がある。 入居後は勤務人数を増やしたり、夜間の待機など本人の不安を最小限に軽減できるようにし、少しでも安心して生活ができるようにしている。	○	状況に応じ、体験から入居という事例を増やしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に過ごす時間を多くは取れないが、介護をしてあげているという思いは少なく、一緒に過ごす家族としての意識が大きく、共に喜び・楽しみ・悲しみ・怒りを共有している。人生の先輩としての利用者から多くの事を学んでいる。が時には業務が優先しているときが見られる。	○	介護してあげているという意識が強くないような働きかけ(研修会や現場の中で)をおこなっていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	担当職員が決まっており、来訪時に日頃の状況の報告や相談など家族に行い、家族と一緒に本人にとっての困りごとについて考えている。	○	家族からの意見が言い出しやすいような雰囲気作りや、信頼関係作りを更に築いていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家庭訪問を繰り返し行い家族の再構築が出来た事例がある。 又、本人・家族の状況を見ながら外出・外泊を促しており、そのことで家族の自信となり、定期的に外泊の受け入れが出来ようになった家族もおられる。	○	ホーム側の思いだけで押し付けにならない様にするためにも、家族の方の思いを知り受け止めることの大切さを知ることが、本人との良い関係作りになると考えている。このことを職員で考えていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	見慣れた風景を見て感じることで、気持ちが落ち着かれる利用者の方がおられ、定期的にその場所に行くようにしている。 また、利用者のご近所の方や親戚の方が時々訪問される事がある。	○	今後、利用者からご近所の方や友人の方を訪問する事が可能か、家族の方と相談し検討したい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員から場の設定をする場合もあるが、入居者同士その場その場においての関わりがあっており互いに微笑ましい光景や助け合いが見られることもある。急に気分に変化が起きることもあるので注意して見守ることも行っている。	○	入居者同士の関わりが増えるように、職員側からの仕掛けを行う様にしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された本人と家族を含め、行事への誘いや年賀状を出したりしている。 行事以外にも時々、訪問される事がある。	○	今後も、訪問しやすい雰囲気を作っていく気軽に訪ね来てもらえるようにするために、お便りを出すことを続けていく。 退去予定者のご家族から自宅に遊びに着てほしいとの申し出があっている是非、利用者の方たちと訪問を計画したいと考えている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から暮らし方の希望を聞くことは難しい場合が多くその時々言葉や表情から推測し関わるようにしている。家族から話を聞き少しでも本人の思いに近づけるようにしている。	○	日常の中での本人の表情や行動を良く見ることで、出来るだけ本人の意向に沿えるようにしていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当職員が家族との信頼関係を築きながら本人の生活歴や、これまでの暮らし方など状況によっては家庭訪問を繰り返しながら把握するように努力している。	○	日々の業務に追われ家族からの情報を聞き逃さないように努力する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの過ごし方を大切にしている。出来ることを職員ともども一緒に喜び、他職員とも情報の共有をしている。	○	日々の業務に追われ出来ることに対してもつつい手を出してしまわないようミーティング等において意識付けをしていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が中心となり評価を行い他職員の意見を聞きケアプランへ反映させている。 家族からの要望・意見を聞きプランの作成を行っている。	○	家族からの意見が自由に言えるような雰囲気や場の設定を行う。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	大きな変化が見られない場合は見直しが遅れるときがあるが、状態変化時は家族・主治医等への報告・相談を行い計画を作成している。	○	期間が終了する前に見直しが遅れないようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務開始前に連絡ノート・個人記録を読み情報を共有しケアに入っている。	○	記録に本人の言葉を多く書くようにし、その言葉の中から気づきを見つける工夫をする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や入院時の早期退院、又終末期の看取り等の支援など、本人や家族の状況・要望を聞き柔軟に対応している。入居者の状況に応じ訪問看護ステーションを利用する事もある。音楽療法・回想法などを取り入れた「元氣くらぶ」を一回／月実施している。また、状況に応じ併設のデイサービスを	○	利用者・家族の状況を見ながら、家族と過ごせる状況を作るなど、型にとらわれないサービスを考えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議や校区の公民館・町内の消防団・看護学生のボランティアの方と入居者の支援について意見交換を行っている。行事の時にはボランティアの協力もある。散歩時など近隣住民の方たちからの支援をいただいている。	○	運営推進会議以外の方たちとの意見交換をする機会を多く持てるように計画をしたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	校区開催の敬老会には毎年参加している。同敷地内にあるデイサービスに参加している利用者もいる。入居者の状況に応じ訪問美容サービスを利用している。	○	併設以外のサービスの活用を考えていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は行っていない。	○	H21年度から運営推進会議へ地域支援センターの職員の参加を予定している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、本人の状況に合わせて対応している。通院介助に対しては入居時説明を行い同意を得ている。入居者の状況に応じ、かかりつけ医からの往診を受けている。受診後は家族との情報交換を行っている。入居者の状況に応じ歯科往診を受けている。	○	往診が難しいかかりつけ医もあり、今後重度化に伴い検討していく課題である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医ではないかかりつけ医が多いが、認知症の方に対しても熱心で、家族や・職員からの相談にも気軽に応じてもらえている。	○	かかりつけ医の医療機関に対し認知症に関する情報を積極的に提供していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、また役員も看護師であり、日常的にも健康管理や職員への指導も行っている。パート職員として看護師1名採用している。併設の訪問看護ステーションとの契約もしており週一回の健康チェックや職員も気軽に相談ができ助言をもらっている。	○	重度化している入居者や医療面の多い入居者が多いことから、家族の方の安心ももちろんだが、職員も精神的にも安心してケアが出来る体制を継続していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院になった場合、家族の意向を確認しながら、かかりつけ医や担当医と相談をしながら、出来るだけ早期退院が可能となるような働きかけを行っている。	○	今後も入院が発生した場合早期退院が可能となるような働きかけを行っていく。そのためには職員の指導の強化も必要。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・本人の希望があれば看取りを実施することを契約時説明し同意を得ている。 看取りの時期に入る前に家族・職員と話し合いを行っている。 かかりつけ医・家族・ホームとの話し合いも行い職員への情報提供を行い、ケアに結び付けている。	○	往診の出来ないかかりつけ医の場合、在宅療養支援診療所の紹介など情報の提供や理解を求めていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族の意向を聴き、本人の気持ちを大切に、職員全員で、家族も本人も安心して最期を迎えられるように関わりをもっている。かかりつけ医の(全てではない)協力も大きく5月に看取りをしたが、かかりつけ医・家族・職員とも方針について十分に話し合いを行い実施した。	○	認知症の方でも一人の人間として大切に考えられ、可能な限り日常生活の中で終末を迎えられるように体制を継続していく。職員は、看取りを通し学びも大きい、精神的な負担も大きい、職員のストレスを最小限にする取り組みを続けていく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	4月末に自宅に帰られる入居者の方がおられ、家族に対し、自宅においてのケアの方法など計画的に行っている。また、本人はもとより、退居後の家族の負担が強くないようにケアマネージャへの情報提供や提案を行っている。	○	自宅への退去にむけて外泊や家族の宿泊などシミュレーションを行っている。 今後も自宅への退居が可能となるような関わりを行ってきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	プライバシーに関しては職員に徹底し指導を行っているが、時に他の人がいるところで、排泄に関する関わりを行っていることがあるが、少しずつ職員の意識の変化が見られるようになっている。	○ ミーティングや勉強会を通しプライバシーに関し意識向上をはかる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意向を聞くことが困難となってきているが、意思を確認する関わりは行っている。 外出時など自分で決める場面を作っている。	○ 「～だろう」という職員の思い込みでのケアにならないように本人の思いを感じ取れるような研修を行い、本人の意思が叶うケアが提供できる職員の育成をしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間は本人のその日の状況での支援を行っている。 入居者の方はそれぞれに自由に自分の居場所を持ち過ごされている。外出や外食が好きな入居者の方に対しては計画・無計画に出来るだけ柔軟に対応している。	○ 重度化している入居者や介助者が多くなり以前に比べ希望時に即対応が難しいときがある。柔軟に対応できるための対策を職員同士意見交換を行い対応策を考えたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一緒に化粧品や洋服を買いに言ったり、家族の方から要望もあり化粧をしたり美容室など定期的に行っている。 業務に追われ職員の考えで行ってしまうこともある。	○ 必ず本人へ確認後、色々なことを行うことが身につくよう指導をしていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に出来る入居者が少ない現状で、出来ることを、心が動いたときにしてもらうように支援している。 誘い方で、「関係ない」と感じる入居者もあり、本人の心が動くような関わりが出来ていないときがある。 介助が必要な入居者に対しては最初から介助するのではなく、状況に応じて手を出している。同じものを同じテーブルで食べている。	○ 介助者や嚥下が困難な入居者の方が増えてきたので、栄養士による勉強会を実施、高齢者用のソフト食の作り方など考えての献立が出来ようになってきている。今後もミーティングや意見交換を行い職員の嗜好にならないようにしていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	担当職員は特に本人の嗜好を把握しており、特に誕生日には本人の好きな物でお祝いをしている。又、お酒の好きな入居者には希望時やこちらからの勧めにより飲んでいる。家族の協力で持ち込みをってもらう事もある。	○ 意思を伝えられない入居者に対する支援の方法を考えていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居時排泄パターンを数日にわたって観察すると同時に時間毎にトイレ誘導を行い、オムツ外しに組み外れた入居者も多い。 又、重度化している中で、オムツを使用せざるを得ない状況であっても、そのなかで出来る限りトイレで排泄してもらえよう工夫している	○	継続していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は午後からに一応決めているが、入居者の状況を見ながら「今」を見ながら時間に関係なく柔軟に対応している。 入浴が嫌いな入居者に対し職員は心を痛めながらも状況次第では強制的に行っていることもある。	○	入浴嫌いな入居者を気持ちよく入ってもらうための方法を常々職員と意見交換を行っているがなかなか成功しない、今後も諦めずに取り組んでいく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の状況に応じ日中に休息や、夜間自室での就寝を嫌がられるときには無理強せず安心して眠れる場所で寝てもらおうようにしている。	○	日中の活動をもう少し取り入れることを検討していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来ることへの言葉かけを行い家事を手伝ってもらっている。 誘い方で、自分から進んで「何かすることない」と職員へ声をかけられることもある。 業務に追われ、分かっている職員だけで動いてしまうことがある。	○	職員の気持ちにゆとりが持て、入居者の楽しみや役割が実現できるための方法について意見交換をおこなっていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時(買い物・受診時)に本人の財布を渡し、会計をしてもらっている。	○	自分の手元にお金がないことで不安をもたれることがあるので、本人が出来る金銭管理の方法を検討していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候とその日の入居者の状況その日の職員によって外出や、外での食事を行っている。 散歩に出られる入居者にたいしては、優先して同伴している。	○	入居者の重度化に伴い全員での外出が難しくなっている。遠くでなく近くに出かけられる場所の確保や、出かけられる入居者での外出などさまざまな支援の方法を考えていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅に帰りたい入居者に対しては家族の協力の下計画を立て職員と一緒に付き添い一日を自宅で過ごすこともある。 映画・コンサートなどにいけない状況になってきている。	○	希望時すぐ対応できることはないか検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望により自宅へ電話することがあり、家族からの電話の出られ話をされることがある 手紙などはなかなか難しい現状がある。	○	家族へ手紙を出すことをぜひ実現したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるような雰囲気はできていると思う、ご家族の方たちの面会も非常に多く来られている。 家族の方からも気安いといっただいている。 面会時間の設定はない。	○	家族の方自ら台所に来られお茶の準備や、お茶碗の片付けなど積極的にしていただける関係が出来てきている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	時に言葉による拘束が聞かれるときがある。そのときに理由を聞き職員に考えてもらうようにしている。それ以外の拘束は無いと自覚している。	○	職員の意識が薄くならないように勉強会の取り入れていき意識を統一する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	8:00から20:00ころまで玄関には鍵はかけていない。 入居者の方が外に出たいときは時間・天候に関係なく一緒に出かけたり、ドライブに出かけている。 18:00から職員の手が薄くなり、入居者の状況に応じ鍵をかけることもときにある。	○	継続していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在の確認をさりげなく行っている。特に所在を確認することが必要な場合は職員同士確認しあっている。	○	安全に暮らしてもらうために、状況に応じ優先順位を決めケアに入っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・洗剤など日常的になっており、その時々に入居者に危険と感じられたときに職員同士検討している。 事故防止としてのマニュアルはあるが、最近職員への意識の統一を行っていない。	○	マニュアルの見直しや職員の意識の統一をする。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	嚥下が難しくなって来られている利用者の方が増えており、食事時の誤嚥・窒息に十分気をつけている。 また、転倒・転落の大きい利用者の方もおられることで、状況から予測されることを共有し事故防止に取り組んでいる。 防災担当を決め取り組んでいる。	○	常に入居者に目を向けておくことの重要性を職員に意識つけるために毎日のミーティングを通し日々のケアの振り返りを行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年一回GHとDSとの合同勉強会を実施している。	○	継続していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の方の協力の下、夜間を想定した避難誘導訓練を行った結果、近隣の方々の協力が不可欠ということを感じた。近隣に向けた非常ベルを検討している。	○	町内消防団・近隣住民の方たちの協力を得ての訓練ができるような取り組みを検討したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に話し合いをしっかりと持ち同意を得ている。入居者の状況の変化に応じ家族にそのつど報告を行っている。	○	入居者の状況の変化を見逃さないために情報の共有を行っていく。入居者の状況の変化時各担当者が家族に報告が出来るように指導を行う。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は入居者一人ひとりの観察を十分にしており、少しでも変化を感じたときはVSチェックをして、管理者(看護師)へ報告を行い早期の発見につながっている。	○	高齢者に多く見られる疾病・それによる症状など勉強会の計画を立て少しの変化も見のがさない職員の指導教育を行う。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬品名カードをファイルに入れ、いつでも見られるようにしているが、全職員が把握しているかの確認はしていない。与薬時は3回確認を徹底している。	○	まず担当入居者の服用している薬品の名前と効能・副作用について把握するように指導している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分のチェックや食事内容や毎食前にカスピ海ヨーグルトを食べてもらっている。活動が少ない入居者に対しては他動的に運動を取り入れたり腹部の温罨法を行ったりしている。	○	自分で活動が出来ない入居者に対しての他動的活動が少ないので活動する事の意義を理解し積極的に行うように指導していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食前・後歯磨きを行っている。週一回歯科衛生士の訪問があり質問をしたり指導を受けている。	○	確実に定着しているが今後も意識を保つために年間の勉強会の計画に入れていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を記録に残し少ないときは捕食をしてもらっている。水分量が少ないと感じたときはチェックを行い頻回に飲んでもらうようにしている。	○	食事・水分に関しては職員一丸となってチェックしており、入居者の状況に合わせた支援を行っているが、糖分が多いという家族からの指摘を受け、同じ指摘を受けないよう研修を通し職員の意識づけをおこなってきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成してあり職員に周知している。洗面台に手洗いの方法を貼り、出勤時・排泄介助後・外出後・退社時にうがいと共にを行うことを徹底している。市からの通達事項があった毎に職員に回覧しサインをしている。	○	昨年から入居者に対しインフルエンザの予防接種を、免疫効果を高めるため2回接種について協力医と話し合い、家族の同意も得て行っている。職員については1回接種になっている為検討が必要と考えている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾・まな板など毎日消毒を行っている。食事の準備に取り掛かる前には必ず手洗いをしている。食材は商店が遠いため買い置きをする事があるが、古くなったものは処分している。食中毒の時期には生ものは控えるなど特に注意している。	○	商店が遠いため買い置きが多くなってしまふことがあり、食材が古くなることもある。又他の業務に追われ冷蔵庫の掃除が出来ない事もある事から業務の見直しを行い、意識の統一を図る。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般家庭の玄関と変わりなく親しみのある玄関になっている。玄関前にはプランターに花を植え、手作りの看板が迎えてくれる。	○	近隣の人たちが立ち寄り易くするための工夫を考え、散歩時等よってもらふような声かけをして行く。また、新しい住宅が増え、近隣の人達も変化してきている、挨拶・声掛けがより必要と感じている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事準備の風景が見えるリビングのソファで過ごされている。縁側では朝日を浴びての日光浴やおしゃべりをして過ごす。リビング・廊下・縁側にソファや椅子があり、思い思いの場所で過ごされている。面会時には居室や談話室等で家族の時間をゆっくりともたれている。	○	つつい職員の声が大きくなる時があり、入居者にとって不快な声になっていないかを感じる時がある。勉強会において職員の私語について話し合いを行い入居者にとって聞きやすい声のトーン・入居者を交えての会話をするように取り組んでいる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下・縁側・リビング・談話室と少人数でくつろげる場所がある。	○	現状を続ける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の生活スタイルに合わせた机・カーペット・写真・筆笥など家族の方が準備をされている。なじみの物が本人にとってどのような影響を与えるのか本人の状況から思いを知るように努めている。一人ひとりそれぞれに個性ある居室になっている	○	本人にとって居心地の良い居室になっているのかを表情などから推測できるような関わりを持ち居室作りを行いたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	湿度には特に注意を払い乾燥しないよう加湿器を使用している。エアコンが入ったままになっていないか・換気については職員がお互いに声を掛け合いこまめに行っている。	○	動いている職員に合わせた温度設定になっていたりする事が見られることもある為入居者に合わせた室温になっているかその都度職員に対し声を掛けていくことで意識付けができるようにしている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関は意図的に段差をつけている。段差がある事で認識ができ転倒は起きていない。廊下・トイレ・風呂には手摺をつけている。	○	各居室の家具の転倒防止に向け検討中。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の状況を見ながら出来るだけ自分で出来るように工夫をしている。本人が納得できる言葉掛けや途中での声掛けなど本人が混乱を感じないような関わりを行っている。	○	入居者一人一人の「今」の状況を見極め常に職員同士での情報交換を行い統一した関わりを持つようにする。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周囲のは花を植えてあり、玄関に小さいベンチを置き夏は涼んだり外の花を楽しんだり出来るようになっている。ウッドデッキを利用して外での食事や日向ぼっこなど楽しんでいる。	○	利用者の方たちと一緒に花壇の手入れなどでできることを見つけておこなっていきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・認知度の重度の人を重点的に受け入れをしています。重度の人でもその人らしく日常の生活は出来ます。そのために私たち専門性を持ったスタッフがいます。
- ・わがままに暮してきた人、何もしたくない人、人の傍にいたい人、ズーと話をしてほしい人、など個人個人生活してきた過程は違います。それぞれが自分の思うように暮せるホームであり、笑いあり・けんかあり、悲しみあり、そんなことを皆で分かち合えるホームを目指しています。
- ・ご家族からの要望、提案、意見が言いやすい雰囲気作りができるように心がけています。私たち職員だけでなくご家族と一緒に支援をしていきたいと思っています。
- ・ご家族と一緒に話し合い、職員全員で心から大切にしたい関わりを終末期まで行っています。その事が私たちの大きな学びであり、宝物です。
- ・365日24時間管理者（看護師）が連絡体制をとっており、職員の不安、ストレスを最小限にし、充実したケアが提供できる環境を作っています。